

1. 件名：原子力エネルギー協議会等との面談

2. 日時：令和4年7月11日（月）14：00～15：20

3. 場所：原子力規制庁8階南会議室

4. 出席者：

原子力規制庁 長官官房総務課	村上企画調整官
技術基盤グループ技術基盤課	照井課長補佐
原子力規制部原子力規制企画課	藤森企画調査官、斎藤課長補佐、佐藤係長
審査グループ実用炉審査部門	澤田管理官補佐、皆川主任安全審査官

原子力エネルギー協議会（ATENA） 副部長、他1名

東京電力ホールディングス株式会社

原子力運営管理部 燃料管理グループ マネージャー、他1名

中部電力株式会社

原子力本部 原子力部 運営グループ 課長、他1名

5. 要旨：

ATENA等から、TRACGを用いた統計的安全評価手法について以下の説明を受けた。

○TRACGを用いた統計的安全評価手法を安全解析に用いる方法については、最適評価＋出力の不確かさ幅を基本とし、保守性（認識論的不確かさ等）の考慮は、不確かさ幅を広く取ることによって担保するもの。

○よって、最適評価（と出力の不確かさ幅）によって認識論的不確かさ等が考慮不要になるというものではなく、従来の評価法と比べ、解析結果が小さくなることもあれば大きくなることもあり得る。

○従来の評価法との違いは、結果が厳しくなるような解析条件の設定に際して、検討の網羅性を説明する際、工学的判断に一方的に頼らず、比較的技術的に説明できる。

○必要以上に保守性を考慮した解析条件（スクラム反応度等）を設定すると、炉心構成の選択肢が減ることとなり、結果的に10×10燃料の運転性が損なわれる懸念がある。

6. 配付資料：

統計的安全評価手法の導入などについて

以上